

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	静岡県災害派遣福祉チーム（静岡 DWAT）階層別研修プログラムの開発に係る調査研究 - 派遣支援活動のプロセス分析と研修教材開発 -				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部社会福祉学科・教授	氏名	鈴木 俊文
	研究分担者	所属・職名	静岡県社会福祉協議会 福祉企画部経営支援課課長	氏名	松永 和樹
		所属・職名	静岡県社会福祉協議会 福祉企画部経営支援課主任	氏名	渡邊 麻由
		所属・職名	静岡県社会福祉協議会 (前) 福祉企画部経営支援課	氏名	新村 友李
		所属・職名	静岡県健康福祉部福祉長寿局 福祉長寿策課主事	氏名	細井 剣登
	発表者	所属・職名	短期大学部社会福祉学科・教授	氏名	鈴木 俊文

**講演題目**

災害派遣福祉チームの避難所活動による支援プロセスに関する調査研究  
- 熱海市ホテル避難所の支援活動を事例とした災害エスノグラフィーの作成 -

**研究の目的、成果及び今後の展望**

**1. 研究の目的**

本研究は、災害発生時に一般避難所等において災害時要配慮者（高齢者、障がい者、子ども等）を対象に、災害関連死などの2次被害防止を目的に福祉支援を行う「災害派遣福祉チーム（以下、DWAT（Disaster Welfare Assistance Team）登録員）」の活動実態を明らかにし、DWAT登録員の養成、活動に有用な研修教材（災害エスノグラフィー）の開発を目的に行う2ヶ年計画の調査研究である。

調査は、2021年に熱海市における一般避難所での派遣支援活動を経験した、DWAT登録員を対象にしたインタビュー調査、活動日報等の記録収集を行う。分析は、質的研究法（修正グラウンデッド・セオリー・アプローチ：以下M-GTA）を採用し、DWAT登録員が活動開始から終了までに実施した支援活動の概念化と生成した概念を支援プロセスとしてフェーズ化（構造化）する分析を加え、これらの分析結果を土台に、支援活動の実態を再文脈化した記述により災害エスノグラフィーの作成を目指す。

**2. 今年度の成果**

M-GTAの分析結果により95の概念を生成し、これに対応したチーム活動に関連する要素を10カテゴリーで整理した（活動準備期→チーム合流期→活動始動期→活動探索期→活動創出期→活動展開期→活動定着期→活動拡大期→活動終結期→振り返り期）。この結果をもとに、災害時における避難所活動の開始から終了に至るまでに行われた福祉支援活動の具体例を6点取りあげて再文脈化し（「1. チーム活動の基盤となる保健師とのラウンド」「2. ラウンドで行われる被災者へのヒアリング」「3. アセスメント（課題分析）で生かされる所持資格とキャリア」「4. 福祉的トリアージとしての福祉的課題の発見と対応」「5. DWATによる課題解決に向けた活動創出と運営」「6. 避難所の閉所と地域生活への移行支援」）、全3章の構成で災害エスノグラフィーを作成した。

**3. 今後の展望（次年度の課題）**

本研究で作成した災害エスノグラフィーは、2024年1月1日に発生した能登半島地震の支援活動に赴く静岡DWATのオリエンテーション資料として活用した。今後は、本研究の結果を参考に、DWAT登録員養成研修内容と派遣支援活動を照らした分析を加え、階層別研修プログラムの開発に着手する。